

### 第3回大阪市障がい者施策推進協議会 発達障がい者支援部会 会議録

日時：平成26年3月19日（水）午前10時～12時

場所：市役所屋上階共通会議室

（開会）

（出海障がい者施策部長兼発達障がい者支援室長 あいさつ）

（委員紹介、事務局紹介、資料確認）

#### 【議題1 発達障がい者支援センター事業実施状況について】

（間宮発達障がい者支援マネージャー（以下M））

資料2により実施状況説明

（質疑・意見など）

（岩崎委員）

私立保育園への巡回相談で、個別支援は大事だと思うが、集団や個別支援における課題はあるか。

（井上委員）

全体のクラス運営に関する相談や個別の相談を受けている。課題としては事前に保護者に了解を得ているケースもあるが、そうでなく、訪問してその場で相談に上がってくることもある。また、巡回だけではフォローしきれない、相談機関に繋がらないといけないこともある。毎年、相談が上がってくる保育所もあり、同様なケースには応用するよう保育所を指導していかなければならない。

（里見部会長）

対象は診断を受けているこどもであるが、未診断のこども、疑いのあるこどもの相談も多いと聞いている。

（岩崎委員）

定型発達のこどもとの間で発生する問題への対処や工夫について教えてもらいたい。

（井上委員）

友達好きだけど、仲良くなり方がわからないという問題については先生が間に入ってもらおうことにしている。グループがどれくらい落ち着いているかが、指導内容の反映に左右する。園の中で先生達が共通理解してもらうのに時間がかかる。

（里見部会長）

広汎性発達障がいの場合は社会性の問題があるので、どうしても対人面のトラブルが起こってくる。

(福田委員)

青年成人期の支援機関について、どんなところからの相談が多いのか。

(井上委員)

生活介護とか、高機能の方が利用されている就労移行支援事業所、精神障がい者支援事業所と様々である。支援機関の中には通所ではなく、相談機関もある。

(里見部会長)

相談者割合で学齢期が31%というのは学校では対応できないような問題なのか。

(井上委員)

保護者に特性があって、学校とコミュニケーションが取れないとか、進学や就労の相談をどんなふうにしたらいいのかという相談等、保護者からの相談が多い。学校の先生からの相談もある。

## 【議題2 発達障がい者就業支援コーディネーター事業実施状況について】

(山田発達障がい者就業支援コーディネーター (以下c o) )

資料3により実施状況説明

(質疑・意見など)

(岩崎委員)

新規相談者でサービスの活用方法や組み合わせ、就労継続を支援する環境づくりが浸透していないとは具体的にどんな難しさがあるのか。

長期の支援とはどんな支援が必要なのか。

(山田c o)

自分にあった就労移行支援事業所を決めるのは難しく、当事者や家族だけで見学に行き、1か所目で自分に合わないと感じても、断ることができなかつたりする。比較して決めて良いということを伝えていくことが必要。

長期の支援は、就職後の継続支援が長期になる場合がある。

(岩崎委員)

人や環境が変わってしまう時に支援するスタッフの力量が大事だということか？環境が変わる時に不安になると思うが。

(白江委員)

継続して4~5年というのは違うのではないか。一旦切れてまた再開するというのならわかる。継続しないといけないというのは岩崎委員が言われたように、どういう風に見定めていくかという難しさがあるのではないか。

(里見部会長)

支援の具体的な方法をマニュアル化してあるのか。毎回行って直接支援するのは、継続できにくい。

(山田c o)

マニュアルは作成している。会社の中で役割を確立させて、本人が安心して働ける環境を作ってもらうが、変化が生じた時にはその都度、対応している。

(里見部会長)

いつまで関わるかという問題。その職場の中で支援していくシステムを作らないと、外部からの継続支援が必要になるので、そういう仕組み作りに関与しているかということ。

(山田○○)

職場での対応方法マニュアルは準備して送り出している。就労支援になぜ長期になるのかというと、職場の問題というよりは、家族が倒れたとか年金申請したいとか生活の中での変化があるので、相談にのっている。担当者が変わると、そこを乗り越えていけると学びがあり、次に同じことがあってもトラブルが小さな力で乗り越えていけるようになる。

(里見部会長)

それをコーディネーターがするのではなく、企業の担当者が出来るよう支援しないといけない。企業を支援する方法を考えていくこと。

(岩崎委員)

相談する相手が必要で、スタッフが変わっても大丈夫にすることが必要。

(里見部会長)

職場の中に相談できる人やキーパーソンを構築していける仕組みを作ること。

次に、アンケートの聞き取り調査で、うまくいっているケースの本人と企業、退職してしまったケースの本人と企業の両方に聞き合わせをすると、どこがうまくいった理由で、どこにうまくいかなかった理由があるのかがわかる。課題と成功する秘訣が見えてくる。

(福田委員)

登録者で、高等学校に在籍している方が4名いるが、普通校に在籍している人が発達障がいだとわかって一般の就職では難しい時に、福祉のサービスを受けたいという相談にのってもらえるのか。

(山田○○)

相談に乗ることは可能であるが、高校在籍時の主たる担当者は学校の進路の先生になる。我々が主として動くことはできない。今後の見通しとかで知りたいことがある時には相談にのることはできる。

### 【議題3 再構築事業実施状況報告について】

(河合市立心身障がい者リハビリテーションセンター相談課長兼発達障がい者支援担当課長)

「発達障がい者支援センター（エルムおおさか）による地域サポート体制の強化」、  
「専門療育機関の設置」について説明

(青木こども青少年局管理課保健副主幹)

「乳幼児発達相談体制の強化」について説明

(石井教育委員会事務局指導部主任指導主事兼市立心身障がい者リハビリテーションセンター相談課担当係長)

「ユニバーサルサポート事業」、「巡回相談体制の強化」、「発達障がいサポート事業」について説明。

(北口教育センター首席指導主事兼こども相談センター教育相談担当課長)

「発達障がい研修支援事業」について説明

(松田こども青少年局こども家庭課長)

「児童養護施設での発達障がい児自立支援事業」について説明

(質疑・意見など)

(岩崎委員)

教員の研修では、家族への支援のあり方についても実施して欲しい。また、保育所や学校で、個別支援計画が保護者と共有ができていない現状があるのではないか。

(歳國こども青少年局保育所運営課長代理)

公立保育所では個別支援計画は保護者と共有しながら作成していくことを進めている。ただ、保護者がデリケートな部分もあるので、共通認識ができない場合には保育所内職員で共通理解をして進めているところはある。個別支援計画を就学先に繋ぐことも進めている。職員同士の勉強会も実施し、保護者と相談しながら一緒に計画を立てている。

(岩崎委員)

コピーをもらえないとか、イニシャルにしないとプライバシーの面から渡せないといわれたと相談がある。保護者に渡すものなので、保護者が責任を持って保管するものである。同意をされている保護者ももらえないという話を聞いている。

(里見部会長)

公立保育所と限定して話しているが、それは公立保育所なのか。

(岩崎委員)

公立保育所である。個別の問題かもしれないが。

(歳國課長代理)

状況を確認しながら進めていきたい。

(北口首席指導主事兼教育相談担当課長)

保護者理解や連携については発達障がいや障がいの有無に関係なく保護者と学校の連携は大切。この研修に特化せず、新任研修や2年5年10年次研修など、事あるごとに取り上げている。個別支援計画についても学校によって差はあるが、基本的には保護者に見てもらい、共有している。まだ、保護者に見せるのかという相談があるが、保護者に見せるように指導している。コピーも含めて保護者の責任のもとで保管してもらうのは当然のこと。長期休業に入る前には児童の成長過程や課題を

見せて保護者と共有して進めていくことが大事。不具合が出ているようなら、教育委員会や教育センターに連絡をしてもらいたい。当該の学校等に指導し、正しい状況を説明して円滑な保護者との連携ができるように図っていきたい。保護者に遠慮せずに連絡するよう、話してほしい。

(里見部会長)

保護者理解では、親も同じような立場で協力してくれるものだという前提で進めていくことが多いが、保護者は課題を抱えたこどもを持って悩む辛い親なんだということを理解してもらわないとモンスターペアレントというレッテルをはることになってしまう。怒りを持っている保護者とか悩んでいる保護者とか、段階があると思うので、そこをぜひ理解してもらえそうな講座は必要かと思う。

(福田委員)

ペアレント・トレーニングを受けた保護者に、次はペアレントメンターを続けてもらえるようお願いしたい。学校は区長マネジメントの発達障がいサポート事業があり、充実してサポートしてもらえると親も安心する。特に運動会などがこの支援で戸惑いもなく参加できていた。本当によかったと思う。民生児童委員の研修会では講演内容が具体的で、民生委員も、見ただけではわかりにくい障がいだけど、支援をするとよくなることが実感してもらえたと受け止めている。大阪市が民生児童委員の研修会を最初に実施したことに感謝している。

(里見部会長)

児童養護施設等で施設在籍児童の内、約 260 名が発達障がい（疑いも含む）とあるが、児童数全体では割合が何%になるか。

(松田課長)

厚生労働省が5年に1回実施している施設児童の実態調査では発達障がい（疑いも含む）児童は、おおよそ25%という結果が出ている。本市も、約1000名の措置児童の内、251名で、ほぼ同じ割合であった。

(里見部会長)

多いという予想は立っているが、実際は施設の人は把握していなかったり、逆でないかのように話すので疑問に思っていた。

#### 【議題4 発達障がい者支援指針（仮称）について】

(河合課長)

資料5により説明

(質疑・意見など)

(岩崎委員)

小さい時から成人期まで通して関係者がそれぞれの分野で活動しているが、お互いに十分理解しあっていないことが結果として弊害となっている。中心に何を置くか、大きな課題であると思う。

(河合課長)

作業ベースの話しから入ってしまったが、作業をしながら冒頭では基本理念を示していく必要がある。事務局が示すというよりは先生方の意見を頂き、大きな方向性、理念は最初から置くべきだと考えており、ぜひご意見をいただきたいと思っている。

(里見部会長)

当事者の意向や気持ちを重視し押さえた支援が必要で、特に広汎性発達障がいの方はコミュニケーション障がいがあるのでそこを伸ばしていく、支援していかないと難しい。全体の構想を見たときも周りの理解というところは含まれているが、彼らのコミュニケーション支援、ソーシャルスキル支援というところがまだまだ弱いのかと思う。当事者のための講座が必要だなと今聞きながら思ったのでぜひこの先の構想の中に入れてもらえればと思う。

(福田委員)

学齢期だけに教育の支援が偏っている。やはり高等学校、大学等色々これから支援することを大阪府が考えている。大阪の住民が府立高校や私立の高校に通うので、相談支援のありかたを考えていただけると、進路、就労に向けて支援してもらえと思う。私たちも経験上、学校に行っている間に、どれだけ支援したかによって子どもの問題行動が少なくなっていると感じている。ペアレントメンターの事業で、考えを押し付けてしまうメンターもいるのでコーディネーターとしてアドバイザー的な先生が最初についていただけると、上手に教えてもらえる。

(溝上委員)

学齢期の支援で小学校ではなく、思春期である中学校の方が問題が発生しやすくなっているが、実際は学校の取り組みが薄くなっている。しっかりサポートしてもらいたい。また、学校にいけない状態になってしまっている人、中学校で不登校になってしまうと、高校で通信制に通うことになると社会でどこから関わっていくのが難しくなっていくので、不登校への対策も充実してもらいたい。

(河合課長)

指針に関わらず、庁内連絡会で「若者自立支援ひきこもり連絡会」という関係局が集まっている会議がある。今日の会議から支援室とエルムおおさかがメンバーに入る。学校に来ているときはいいが、不登校になると、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーに研修を実施し、発達障がいに取り組んでいくとか色々なアプローチが考えられる。

(岩崎委員)

ペアレントメンターの話があったが、同じ立場に置かれている人がいると非常に伝わることもあるが、一方で自分の経験を頑張ってきたからと一生懸命伝えて、しんどくなる親がいるので、第三者が入る、サポートする人が必要である。また不登校について、実際に学校に行っている、学校から帰ってきてから親に暴力振るうという事態が起こった時に、どういう風に改善に向けるのか、大きな課題である。親は学校の先生に言いにくいし、先生は学校では一生懸命やっていますよ、と言われ

る。でも家ではいうことを聞かない。あまりにも学校と家で違う状況が出てきたときに、関係者が集まると、どこに相談したらいいのかという話になるが、この課題についてはどうか。

(河合課長)

思春期にたくさんの課題が出てくる。定型発達の子どもでもそうだが、さらに発達障がいとなるとその特性からしんどくなることが多いので、親支援講座のメニューでもそういう時期の色々な課題に対して一度にはできないけれど、新年度そういうところにも取り組んでいきたい。

(白江委員)

基礎調査で発達障がいの方にアンケート調査をしているが、回収数が98人、そのうち学齢期が14名、分析するのが難しいのではないかと思う。そういう点で具体的な構想を持っているのか。

(河合課長)

調査の手法上住所を把握している人は成人期が中心となる。これですべてがわかる訳ではないが、回答を返してくれた貴重な情報として取り扱っていきたい。18歳未満は16.3%。

(里見部会長)

今後このような調査をする予定はあるか。

(河合課長)

今は具体的にはないが、普段から団体の方や市民の声や出向いたところで色々な意見を聞くので、そういったものを一つ一つ積み上げていきたいと思っている。

## 【議題5 その他について】

(河合課長)

資料6

発達障がい者支援事業予算について（平成26年度）、世界自閉症啓発デー、発達障害啓発週間の取組、療育支援事業啓発DVDのWeb上での公開について説明

(質疑・意見など)

(福田委員)

(26年度から大阪城天守閣をブルーライトアップすることになり、)啓発デーでは多大なる尽力をしてもらい、大阪市の協力がなければ通天閣だけしかできなかったと思うので感謝している。

(里見部会長)

これで、本日予定されている議事につきましてはすべて終了しました。